



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第36号
令和4年 1月14日

書き初めは、現代にも受け継がれるいにしへの伝統行事

～校内席書会・校内書き初め展覧会～



5年生

書き初めは、今から千年くらい前の平安時代に宮中の「吉書初め(きっしょはじめ)」という行事としてはじまったと言われています。

「吉書初め」では、元旦にその年初めてくんだ水ですった墨を使い、恵方を向き、詩歌を書いていたそうです。もともとは天皇家の行事の一つだったのです。

ちなみに、恵方とは「歳徳神(としとくじん)」(別名で年神様や正月様)という神様のいる方角で、その年の縁起のよい方角です。恵方は、その年によって変わり、今年は「北北西」です。

この行事は、江戸時代になると子供たちに読み書きを教える寺子屋の普及とともに広く庶民にも広まりました。さらに、明治時代になると学校教育の中で、書道が必修科目となり、書き初めが盛んになりました。それが今に続いています。パソコンが普及し、手書きで文字を書く機会は減りましたが、昔も今も字が上手に書けるようになりたいと願うのは変わらないのではないのでしょうか。

1, 2年生の書き初めは、鉛筆で行います。小学校に入学した1年が書写の学習で一番はじめて習うのが鉛筆の持ち方です。この鉛筆の持ち方を習得するのはなかなか容易なことではありません。なぜならば、箸の持ち方が身に付いていないと鉛筆の正しい持ち方ができないからです。鉛筆の持ち方は、箸の持ち方がベースになっています。違いは、上の方を持つのが箸、下の方を持つのが鉛筆です。

3～6年生は、毛筆で行います。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育館で学年ごとに2回に分け行いました。子供たちは、静寂の中、集中して取り組んでいました。音楽や図工、体育などもそうですが人には得て、不得手というのがあります。



4年生



5年生

書写も同じことが言えます。上手に書けるに越したことはありませんが、なかには毛筆が苦手という子もいます。

私は、上手に書くよりも丁寧に書くことが大事だと思っております。丁寧に書いた文字は、その人の誠実さが感じられるからです。

また、道具からもその人の人柄が感じられます。丁寧な文字を書く子の筆は、きちんと手入れがされています。

墨汁の主原料は、「カーボンブラック」と「にかわ」です。にかわは、接着剤の役目があります。書き終わった後の筆をきちんと洗わないとガチガチに固まってしまいます。こうなってしまうと、どんな名人でも上手に書くことはできません。学校では、道具を大切にすることを育つように指導をしております。

校内書き初め展についてですが、本年度は、下記の日程で保護者様への公開を行います。昨年度は、公開をできませんでした。今年度は、児童の下校後、公開をしていきたいと思っております。

ただし、今後の感染状況によっては、公開を控えさせていただくこともあります。中止の場合は、メール及びホームページでお知らせいたします。

公開の有無にかかわらず、作品展の様子は、ホームページにも掲載していきますのでご覧いただければ幸いです。



5年生



4年生

保護者様への公開日時

1月20日(木), 21日(金)
15:30~16:30



4年生